

令和8年度 大田区立馬込第二小学校 自己評価 報告書

○ 本校の概要

令和8年8月21日

本校は、児童数481名(令和8年5月1日現在)、通常学級18学級・特別支援学級(若竹学級)4学級の中規模の小学校である。環状七号線の外側に少し入った閑静な住宅地の中に学校がある。保護者や地域の方々には学校に協力的であり、温かい雰囲気の中での支援を支えられて学校教育を推進することができている。今年度は、「保護者・地域と連携した教育活動」を引き続き学校教育の柱の一つとしながら、大田区独自教科「おたの未来づくり」を校内研究に位置付け、「児童の創造的な資質・能力」の育成に繋がる授業研究を全学年で実施する。また、コミュニティ・スクールが発足し、地域を巻き込んだ学校運営の推進、地域教材・地域人材の開発・活用(外部人材・ボランティアの活用・充実)、教員の地域行事への積極的な参加等を実施する。また、学習の基礎・基本の習得や個別最適な学びと協働的な学びの一体化を目指し、タブレット端末一人一台の学習環境を効果的に生かすためのICT機器の活用、スキルの習得についても継続的に推進を図る。令和8年度1月1日 開校95周年を迎える。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

[illegible]

学 校 別 力 目 ・ 標 教 師 力 を 向 上 さ せ ま す	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。 ※ベア・グループ学習を取り入れた協働的な学び、タブレット端末を活用した個別最適な学び等 1時間の授業に個別学習、協働学習を取り入れた実践	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	保護者のアンケートにおいて、「児童が進んで学習に取り組むための手立てや環境を整え、工夫・改善を図っている」という設問に肯定的な回答の割合	4:90%以上			A		
		②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。 ※区教研等での学びや授業への活用、OJT実践、地域連携等	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。		3:80%以上					
		③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。 ※行事や会議の精選、個々のワークライフバランスの推進、「働きやすさ」+「働きがい」	4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。		2:70%以上					
					1:60%以上					
た 自 個 め の ら 目 学 し 標 び く 5 を い き 援 い き と 生 き る	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えるとともに、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。 ※校内委員会の継続的な実施と充実、若竹学級や異学年等との交流学习、教育支援ソフトの活用	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	保護者のアンケートにおいて、「児童の悩みや保護者の相談に対して、適切に対応する環境を整えている」児童の自己評価において、「先生に相談しやすい」という設問の肯定的な回答の割合	4:90%以上			A		
		②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。 ※いじめアンケート、WEBQUの実施・活用、いじめ認知件数等の継続的な記録含	4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満の教員が回答した。 2:60%以上80%未満の教員が回答した。 1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。		3:80%以上					
		③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。 ※SCとの日々の連携、保護者の相談、SCの紹介(児童・保護者)、校内委員会の活用等	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。		2:70%以上					
					1:60%以上					
安 柔 個 心 軟 別 な で 目 教 創 標 育 造 6 環 境 な を 学 っ 空 間 と す 安 全 ・	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。 ※ICT環境整備(タブレット等のICT機器をより使いやすとする学習環境整備) 地域教材・地域人材(外部人材バンク)の開拓と整備 児童の学習空間(机の配置、整理整頓)の整備	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	保護者アンケートにおいて、「学校は児童が安心・安全に学習するための安全指導や環境作りを行っている」という設問に対し肯定的な回答の割合	4:90%以上			A		
		②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。 ※定期的な避難訓練や安全点検の実施 交通安全指導員や消防署、中学校との連携 地域防災活動との連携	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。		3:80%以上					
					2:70%以上					
					1:60%以上					
学 地 学 校 域 校 別 を コ ・ 目 つ ミ 家 標 ・ ユ 庭 7 リ ニ ・ ま テ 地 す イ 域 の 核 連 と 携 し ・ て 協 働 の 働 に よ る	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体で子どもたちを育成します。	①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。 ※地域連携:地域教材・地域人材の活用、教員のPTA・地域行事への参加、地域防災活動との連携	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	保護者アンケートにおいて、「学校は地域や保護者の協力を得ながら児童の教育活動に生かしている」という設問に肯定的な回答の割合	4:90%以上			A		
		②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。 ※日々の安全指導、春・秋の交通安全週間による地域見守りの実施、PTA地域バトルの実施、地域防災活動の実施	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。		3:80%以上					
		③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。 ※保護者会資料による啓発、体育・健康教育授業地区公開講座講演会、道徳授業地区公開講座講演会、セーフティ教室の実施等	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。		2:70%以上					
					1:60%以上					

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A: 自己評価は適切である B: 自己評価はおおむね適切である C: 自己評価は適切ではない D: 評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載す